

- 水質管理について、各学年や学級担任と分担する場合は、薬品の種類や投入する量、取扱い方、濃度の測定方法等について、確実に示しておきます。

遊離残留塩素濃度

基準	備考
0.4mg/L以上また、1.0mg/L以下であることが望ましい。	残留塩素が検出されない一尿、汗からのアンモニア分によって結合塩素(クロラミン)ができています。鉄分等の影響で塩素が消費されている。塩素不足に伴う有機物等の発生、雨水の流入等による水質の悪化。pHが極端に酸性になっている。などが考えられる。

水素イオン濃度

基準	備考
pH値 5.8 以上 8.6 以下であること。	高い一塩素消毒の効果低下 低い一金属の腐食、凝集効果が低下し、濁度が上昇 ※ 新規の補給水やpH調整剤で調整

濁度

基準	備考
2度以下であること。	白濁一ろ過機の異常、有機物(水あか)による、塩素不足。 緑色一藻の発生、鉄分(溶鉄)やマンガン等金属イオンの影響。 茶褐色一鉄やマンガン等の影響。

プール水の変色

色	原因	対処
緑	藻の発生 pHの影響 塗料、原水の成分 鉄分、マンガン	pHチェック 殺藻処理 スーパークロリネーション
白	汚れ(有機物) 凝集剤 塗装	pHチェック ろ過機の運転チェック スーパークロリネーション
茶	鉄、マンガン	スーパークロリネーション

塩素殺菌・消毒による水質管理を行っていても、遊泳人数が多くなると汗や尿などによって水中にアンモニア分が多くなって水質が悪くなることがあります。汗や尿のアンモニアと塩素が結合して目に刺激を感じるなどがそうです。
目痛の原因は、水中の塩素が多すぎからだと思われがちですが、実は、水中の塩素不足が原因です。こんな時には、一時的に塩素濃度を高くしてアンモニアを分解させる必要があります。この処理を、「スーパークロリネーション」といいます。

プールで使用する塩素剤の特徴・保管

種類	特徴	保管方法
次亜塩素酸ナトリウム	液体 強アルカリ。有効塩素含有量5~10%。連続注入によく使用される。	専用の保管庫。冷暗所。使用期限1年。凝集剤と一緒に保管しない。
次亜塩素酸カルシウム	固体 高度さらし粉。中性。有効塩素含有量70%	専用の保管庫。冷暗所。湿気を避ける。火気厳禁。凝集剤と一緒に保管しない。固体のイソシアヌル酸と混合しないように。
塩素化イソシアヌル酸	固体 酸性。有効塩素含有量60~90%。	専用の保管庫。冷暗所。湿気を避ける。次亜塩素酸カルシウムとの混合しないように。
塩素ガス	気体 ポンペに詰めた塩素ガスを専用の装置で水に溶解してプールに注入	専用の保管庫。「毒物及び劇物取締法」などの規定に従う

排(環)水口の蓋と配管の取り付け口への二重の安全対策

※「排(環)水口とは…「プールの水を排水・循環ろ過するための吸い込み口」

二重の安全対策が必要

排(環)水口はプールの底面や壁面に設置されており、利用者の手や足が吸い込まれないよう、排水口の上蓋はネジ・ボルト等で固定し、さらに、配管の取り付け口には吸い込み防止金具を設置しなければなりません。

【平成25年度長崎県プール安全管理講習会資料より】

【プール指導を始めるまでの準備例】

- ① プール指導の期間を設定する。
- ② 水入れにかかる日数を逆算し、プール清掃日を決定する。(担当学年、教務主任と確認)
- ③ 水がある程度の深さ(30cm程度)になると循環ポンプを始動できる。業者等と、始動準備作業日(プール清掃前にろ過機のフィルタ交換、機器点検等)の日程を調整する。
- ④ 水泳指導計画案作成・提案、安全管理に関する研修会実施する。(機械操作方法、プールの使用方法、緊急体制及び対応等)

【プール清掃時の留意事項例】

- ① 給水、排水等、大量の水を扱うので近隣住民に支障が出ないように、水量に配慮し、時間を掛けて行う。(バルブの目盛りと、1時間あたり何cm給排水できるか把握しておく)
- ② 夜も継続して給水する必要がある場合は、水量を減らすなどし、音にも配慮する。
- ③ 防火水槽として指定されている場合は、排水前に管轄の消防署にも連絡をする。
- ④ プール清掃の前日までに除藻剤を投入するなどし、事前の準備をしておく。
- ⑤ 掃除がしやすい高さ(10cm程度)まで水位を落としておき、掃除しながら排水していく。
- ⑥ デッキブラシ、たわし、水切り、ホース、バケツ等、用具が揃っているか確認しておく。
- ⑦ 底が滑りやすいので注意する。また、危険物が底に沈んでいることも考えられるので、裸足でプールに入らないようにする。
- ⑧ 掃除完了時点で(給水前に)排水口を点検し、写真を撮っておく。(主管市町教育委員会への報告が必要な場合があります)その後、循環ポンプが始動できる高さまで給水して一度ポンプを始動し、機械や配管に溜まっている汚れを流し、再度排水する。
- ⑨ 給水前には排水口バルブがしっかりと閉まっているか確認(水位調整時に排水する場合も同様)し、給水を開始します。

【プール使用時の水質の維持方法例】

- ① 毎朝、水温・気温・残留塩素濃度・(ph) を測定する。(虫、葉っぱ等の浮遊物は網で除去する)
- ② 薬品投入量は、プールの水量、使用人数、天候等により消耗具合が違ってくるので、バルブの開け方で調整し、残留塩素濃度は、0.4～1.0ppmとなるよう維持する。
※使用時、基準に満たない場合は直播きできる薬品があり、数値を上げるのは難しくないが、基準を超えている場合、数値を下げるのは難しいので注意すること。
- ③ pHは、5.8～8.6を維持する。(循環器の機械に合った薬品を使う)
- ④ 2学期まで指導を続ける場合は夏季休業中も水質管理を行う。(特定勤務者の仕事内容に割り当てられる場合は、夏季休業前に機械操作等について再確認しておく)

【緊急時の対応、連絡、プールの掲示物等について】

- ① 緊急時の対応については、職員室、プールに掲示する。
- ② 心肺蘇生法やAEDの使い方についても、関係機関と連携し研修を行う。
- ③ 連絡方法はインターホン、携帯電話、走るなど、プールの位置によって、最も速く確実な方法を確認しておく。
- ④ 「プール使用の心得」についても、最も目に付く場所に掲示をしておく。

■ 国・県が配布している資料等の活用

- 配付されている資料等には、次のようなものがあります。
 - ・小学校体育授業（運動領域）まるわかりハンドブック
 - ・デジタル教材DVD（運動領域）：低・中・高学年
 - ・体育授業はじめの一步
 - ・多様な動きをつくる運動（遊び）パンフレット
 - ・体力向上アクションプランモデル事例集・CD-ROM
 - ・学校体育実技指導資料第4集 水泳指導の手引き
 - ・学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動（改訂版）
 - ・学校体育実技指導資料第8集 ゲーム・ボール運動
 - ・学校体育実技指導資料第9集 表現運動・ダンス
 - ・遊びの事例集 元気アップチャレンジカード
 - ・子どもの体力向上ホームページ
 - ・あじさいスタンダード（体力づくり編）※長崎市のみ
 - ・「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き
 - ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 体育）

県作成の元気アップチャレンジカードは、様々な遊びや運動が紹介されています。学校で印刷をして整理棚に保管し、子どもが欲しいときに手に取ることができるようにしている学校もあります。

また、デジタル教材DVDには、世界で活躍するトップアスリートからの子どもたちへのメッセージが収録されており、単元の始めに視聴させることで子どもの興味・関心を高めることができます。このDVDは複写して各担任に確実に配布してください。

小学校体育授業（運動領域）まるわかりハンドブックは、県作成の「体育授業における効果的な外部指導者活用のためのハンドブック」にも収録されており、各学級に配付されています。

効率的、効果的に質の高い体育授業の充実を図るために役に立つ資料です。日々の授業に活用するよう提案するとともに、校内研修等で活用すると有効です。

■ 教材の準備例等

- 学習指導要領及び同解説から発達段階に応じた楽しい体育授業を展開するに当たって、教材の工夫は重要です。しかしながら、全ての教科を指導する学級担任がそれぞれ準備することはなかなか難しいと思われます。安く簡単に作成できる工夫や材料等の例を基に、夏季休業等を利用して作成するなど、体育主任が率先して準備を進めることも役割の一つです。高額な正規のものを購入しなくても、ちょっとした工夫で効果的なものを数多く準備することができます。

【鉄棒カバー】

- ・塩ビ管の凍結防止用に作られているカバーを切って、そのまま使います。鉄棒が膝裏やお腹に接触して痛くないように、スポンジ製のカバーを巻くことで、痛みに左右されず練習に取り組んだり遊んだりすることができます。



【跳び箱運動のかかえ込み跳び練習ゴム】

- ・幅広のゴムを輪にして使います。跳び箱を2台並べてゴムひもをかけます。子どもの課題や練習の段階に応じて高さを変えることができます。



【ティーボール用ティー】

- ・三角コーンの上にペットボトルを切って置き、その上にボールを置いて使います。牛乳パック（1L）で代用することもできます。



【ソフトボール投げ測定ライン引きトンボ】

- ・グラウンド用トンボの木部に、4m20cmの木材を固定し、その木材に1m間隔で釘を打ち付けておけば、一度に5本のラインを引くことができます。間隔を変えることで、陸上運動系の様々な曲がったコースのラインや8秒間走の伸びを確かめるためのゴールラインを引くことができます。



【ダンボールやペットボトルを利用して】

- ◆ ダンボールとペットボトルは、どんなときも役に立ちます。

〈ダンボール〉

- ▶ 小型ハードル、折り返しリレーのターン地点
- ▶ ボール投げ・蹴りゲームの的、ゴール
⇒ダンボールの的は、当てて音を楽しんだり、穴に入れたり、倒したり、だるま落としとしたり、用途に応じて使い分けることができます。
- ▶ ダンボールを開いて、マット遊びで中に入って前転がりをするキャタピラ
- ▶ マット運動での側転練習のためのコース壁、跳び前転練習の障害物

〈ペットボトル〉

- ▶ 多様な運動（遊び）でボールを投げ上げて取るときの目標、記録の明示
- ▶ 陸上運動系で8秒間走を設定する際の目標、記録の明示
⇒画用紙を巻いて自分の名前を書いて置く
- ▶ ボール投げ・蹴りゲームの的
- ▶ 走り高跳び用スタンド、ソフトバレーネット用支柱
⇒走り高跳び用の場合は、水を入れて4本（2本×2本）をラインテープで巻き、中央の穴に塩ビ管を立てる。その際、塩ビ管に高さがわかる目盛りを入れ、目玉クリップをバー受けとして、竹バーを乗せる。
⇒ソフトバレーネット用支柱の場合は、水を入れて8本（2本×4本）をラインテープで巻き、中央の穴に塩ビ管を立てる。その際、塩ビ管の上端に切込みを入れ、また中央付近にネットのひもを止めるネジを付け塩ビ管カバーを巻いておく。

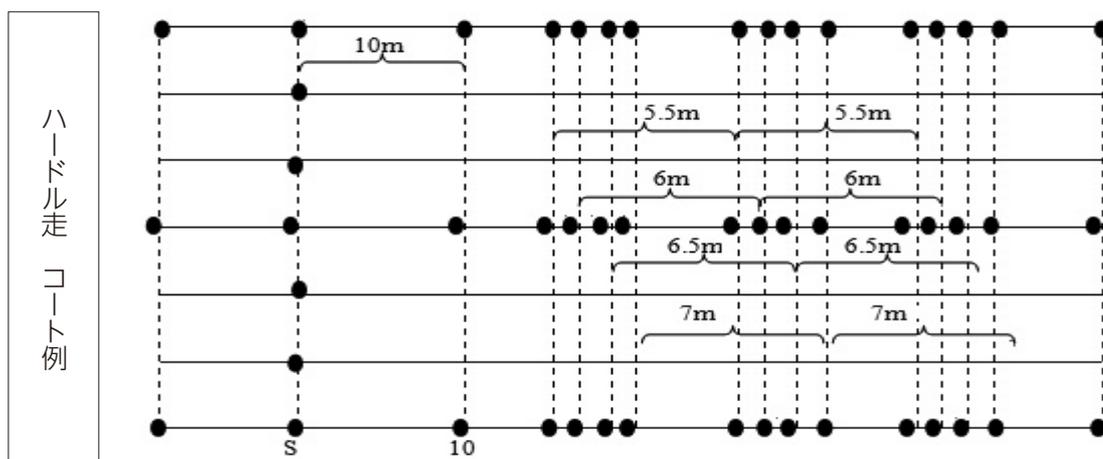


【ゴムホースを利用して】

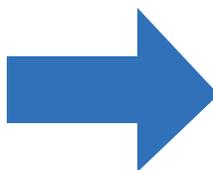
- ・つなぎ目に棒を入れて輪を作ります。ゴムホースのフープは、子どもが踏んでも滑らないので、陸上運動系の走り高跳びや走り幅跳びの踏み切りゾーンや助走のめやすとして活用することができます。厚紙で矢印を作り貼り付けると、ケンステップの代わりとして使用することもできます。
- ・ゴムホースを短く（5cm～10cm程度）切ったものを用意します。低学年の水遊びでは、石拾い用として活用できます。また、運動場の整列ポイントや各種コートのライン引き用のポイントとして使うことができます。

【その他の工夫例】

- ・例えば、陸上運動系のハードル走の単元に入る前には、ハードルを置く位置にあらかじめポイントを打っておくと便利です。先のライン引きトンボと併せ、短い時間でラインを引くことができます。また、ポイントの色を変えると、子どもが自分の力にあったインターバルの距離を選ぶ際のめやすとなります。（コースロープがある場合は、ビニールテープの色を変えて巻いておく方法も有効）



- ・体育館のラインテープ張りは、テープの中に棒を通して引くと、楽に引くことができます。テープを張った後は、雑巾やモップで押すと、ムラなくきれいに張り付けることができます。



- ・年間を通した体育の学習に関する約束事について、職員間で共通理解を図っておきます。「体育時は服をたたんで机の上に置く」「シャツは脱ぐ」「汗はタオルで拭く」などの約束事を印刷して配布し、掲示する方法も有効です。また、体育や校外の学習を行う際は熱中症防止のために帽子を着用させ、時間が長くなる場合は水筒を持参させる、跳び箱の学習の際は、使わない下段は別に片付けておく、マットは2人組みで運ぶ、などについても、共通理解を図っておきます。（巻末資料 P52参照）
- ・三角コーンの頂点の部分のをこぎりで切り落とすと、塩ビ管を立てることができ、三角コーンに重りを付けフープを取り付けるとゴール型ゲーム（投げ上げ型）ゴールとして代用できます。
- ・余った版画用の板の両端に細い角材を付け、太めの塩ビ管と組み合わせて使用すると、バランスボードとして活用できます。また、コンパネ材の両端に滑り止めを付けた太めの角材を付けると、縄跳び用のジャンピングボードとして代用できます。



■ 体育倉庫の整理方法例、遊具、器械・器具、用具の管理

- 体育倉庫や体育館倉庫は、常時整理整頓をし、学習において必要なものをいつでも容易に準備できるようにしておく必要があります。また、子どもが用具の準備や後片づけ時に入りをするので、安全面に留意する必要があります。倒れると危険なものを確実に固定する、重いものは台車に乗せておく、フープや棒、ボール等はかごに入れておくなど、ネームプレートや写真、注意事項を掲示し示しておきます。また、年度当初に職員はもちろんのこと、子どもにも確認をしておくことが大切です。
- 遊具や器具・用具を使用する前後には、必ず点検をし、壊れている場合は担当へ連絡するようにしておくことも大切です。
- 安全点検時は、目視だけではなく、揺すってみたり、かなづちでたたいてみたりして、音での確認や壊れている箇所がないかを点検します。(劣化しているところは音が違う) 気になる箇所がある場合には、複数の目で再度点検したり、写真を撮って関係機関等に相談したりする方法を取り入れます。
- 遊具等の腐食や色落ちが見られたら、早目の錆止めや色塗りがが必要です。その場合は、管理職に相談をし、ペンキ等を購入して夏季休業中に職員作業で対処するなど、計画します。
- 運動場にコースロープを張る場合は、強くて軽く頑丈なものを選択します。(例：クレモノロープ) また、くいの種類は、折れにくく曲がりにくい少し太めの物を選択するとメンテナンスが容易です。
- トラックのロープを張る際、1周133m (例：40mの直線、26.5mの円弧) でトラックを作ると、3/4周で約100m、1周半で約200m、3周で約400mになり、いろいろな場面に容易に対応することができ、効率的です。
- 安全に楽しく学習を展開したり、子どもが遊んだりできるように、サッカーゴールなどは、大きな杭やチェーン等で確実に固定して倒れないようにします。また、「危険なのでぶら下がってはいけない」ことを学習や遊びの約束事として指導することも必要です。台風が接近する場合には、サッカーゴールを倒しておくなどして対処します。



■ 備品や消耗品の購入

- 学習や体力向上に必要な備品や消耗品は、必要に応じて計画的に購入する必要があります。その際、まず、前体育主任 (異動している場合は引継ぎ文書を見て) へ相談をしたり各担任へ希望調査を行ったりして、不足している物や緊急に必要な物等を明確にします。その後、現保有数や状態を調べ、在籍数や学級数を考慮しながら、購入希望数や優先順位を決めます。「次年度は○年生が50人に増える」など、次年度以降の在籍数や学級数の変動も含めて管理職に相談をし、担当者と購入計画を立てます。

【あったら便利なグッズ例】

- ・缶スプレー、カラー布ガムテープ⇒マットや跳び箱に線を引く ・三角コーン用の重り
- ・電子ホイッスル⇒誰もが衛生面を気にせず可以使用 (音色を変更できるもの有り)
- ・ソフトバレーのネットの高さを調節できるバドミントン用支柱のジョイント

8

学校行事の計画例

■ 特別活動のねらいに沿い、練習時間の縮減を図った運動会への改善 (巻末資料 P53～P56参照)

○ 学習指導要領においては、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成を大きな柱とし、学校教育活動を通して子どもに「生きる力」を育むことをねらいとしています。現行の学習指導要領の改訂時、体育科では「子どもの運動習慣が二極化している」「子どもの体力が依然低下傾向にある」「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例も見られる」という課題の指摘を受け、その改善をねらい、指導内容や内容の取扱い等が見直されるとともに、子どもの発達の段階に応じた指導すべき内容が明確に示され、授業時数の増加が図られています。

運動会は、学校の大きな行事の一つであり、特色ある学校づくりを進める上で有効な教育活動ですが、その練習の在り方については、次の点について留意するとともに、学校の取組を問われた場合、しっかりと説明できることが必要です。

- ・「体を動かすこと＝体育」ではなく、教科体育として他の教科同様、学力の向上を目指し、指導すべき指導内容（技能、態度、思考・判断）が全ての子どもに身に付くように指導する必要があること。
- ・学習指導要領に示された指導内容を指導し、客観性、妥当性のある信頼される評価を行うこと。

従前からの課題の改善をねらい、教科としての体育の学習と特別活動としての学校行事との目標の違いや、指導内容と内容の取扱いの違い及び評価の違い等について確認し、学校行事として運動会を捉え直して計画と実施、評価を行うことが大切です。

【学校行事で学校生活をどのように豊かにするの？】

どの学年においても種類全ての学校行事を行えるように計画します。



仲間体験、感動 体験、本物体験!!

5年生の年間行事	4月 入学式	5月 健康診断	6月 遠足	7月 自然教室	8月 地域清掃活動	9月 地震避難訓練	10月 運動会	11月 収穫祭	12月 芸術鑑賞会	1月 学芸会	2月 なわとび大会	3月 福祉施設訪問	卒業式
----------	--------	---------	-------	---------	-----------	-----------	---------	---------	-----------	--------	-----------	-----------	-----

これは、ある学校の例です。学校行事においては、各教科等で身に付けた力が役立っていることを、子どもたちに実感できるようにすることが大切です。



清新な気分を味わう
儀式的行事

文化や芸術に親しむ
文化的行事

健康な心と体、安全な生活をつくる
健康安全・体育的行事

友情を深め、助け合うことの大切さを知る
遠足・集団宿泊的行事

人の役に立つことの喜びを知る
勤労生産・奉仕的行事

特色ある学校づくり

- 学校行事は、各学校の創意工夫を生かしやすく、**特色ある学校づくりを進める上で有効な教育活動**です。何を学ばせたいかを明確に示し、教師全員がそれを理解して指導に当たることが大切です。
- 地域や保護者のニーズ、児童の実態、教師の教育観などから、**毎年新鮮な目で学校行事を見直し、改善を図る**ようにする必要があります。

自主性・協調性の育成

- 学校行事は教師が意図的・計画的に実施しますが、**必要に応じて子どもたちの発意・発想を効果的に取り入れる**ことにより、子どもたちの自主性をはくむことができます。
- 様々な学校行事を通して、子どもたちの所屬感や連帯感が高まり、**愛校心**はくまれていきます。こうした集団意識が、**協調性の育成**につながり、**学級経営の充実**にも直結します。

言語活動の充実

- 体験活動を通して気付いたことを振り返り、**まとめたり発表したりする活動を充実させる**ことが言語力の育成につながります。
- その場限りの体験活動で終わらせることなく、活動の節目にも、**話す、聞く、読む、書く、などの活動を意図的に取り入れていく**ことが大切です。

異年齢集団による交流

- 学校行事は、学年や学校を単位として活動を行いますが、**できるだけ複数の学年の子どもが参加できるように工夫**することにより、異年齢の他者ともよりよい人間関係を築くことができるようになります。
- **高学年ではリーダーシップ**や思いやりの心が育ち、**低学年では上級生に対するあこがれ**の気持ちが高まります。

体験活動の充実

- 体験活動を通して、公共の精神が養われ、**集団活動を行うのに必要な生きて働く知識や技能が身に付いて**いきます。
- **集団宿泊活動**では、学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ、自然体験や社会体験などについて、**一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うと効果的**です。

家庭や地域との連携

- 学校行事は、多くの地域の方々や保護者の参加を得られるように工夫することで、**学校で生き生きと学んだり生活したりする子どもたちの様子を見てもらうよい機会**となります。
- 積極的に家庭や地域の諸団体と連携を図ったり、地域の施設を活用したりすることにより、**効果的な体験**ができるようになります。その際、「**綿密な打合せ**」や「**ねらいや成果などの情報発信**」を心がけるようにします。

- 改善には当たっては、「各教科において学習指導要領に則った学習の実施と適切な授業時間を確保すること」と「特別活動のねらい」を踏まえ、学校としてどのような運動会とするのかという方向性と実施へ向けての共通理解事項を明確にすることが大切です。

【方向性の例】

- ・ 体育授業の内容を運動会で発表する形式⇒体育の指導内容を主とした種目とする。
- ・ 地域の運動会的なお祭り形式⇒練習無しで誰もがすぐにできる（知っている）種目を設定する。
- ・ 従前からの運動会の形式⇒練習時間は体育として加える、学校行事として設定する。

【共通理解事項例】

- ・ 運動会も教員の指導の場ととらえ、教員は適切に指示を行い、子どもは指示を受けたことを確実に行うことができる姿をめざす。 ※PTA総会及び学年PTAで保護者へ説明
⇒開閉会式の行進は、それぞれの学年の発達の段階に応じて、めざす姿を設定する。（年間を通じて、体育の各領域の時間、集会の時間等に指導する）
※ 低学年：腕を振って元気よく 中学年：低学年＋縦の列をそろえる 高学年：低・中学年＋横の列と前後の間隔もそろえる 共通：体の向きの変え方・気をつけと休めの姿勢 など
⇒教員は、子どもの列の先頭や横を一緒に行進しながら、めざす姿へ向け声かけや直接の指導を行うとともに、整列ポイントへ誘導する。
⇒トラックの行進からフィールド内へ入る場所には、誘導担当係を配置し、指示をする。
⇒先頭の整列場所のポイントを示すとともに、縦の間隔ポイントも示して外側の学年のめやすとし、内側の学年は外側の学年の間隔にそろえる。（上級生は隣の下級生へ声をかける）
⇒あいさつ時は、進行が号令をかける。（各種目時は各担当者が号令をかけ指示をする）
- ・ 開閉会式の練習は全校練習として位置付け学校行事でカウント、全校応援練習は児童会活動でカウントする。（応援練習は、昼休み後の集会の時間を充てるが、子どもの状況によっては、臨時に設定することがある）
- ・ 種目は、体育の指導内容から設定する、または、練習の時間や当日の係の準備が少なくなるような種目とする。その際、簡単な隊形の練習等が必要となったときは、体育の標準時数に加えてカウントする。（2～3時間程度）

【種目設定例】

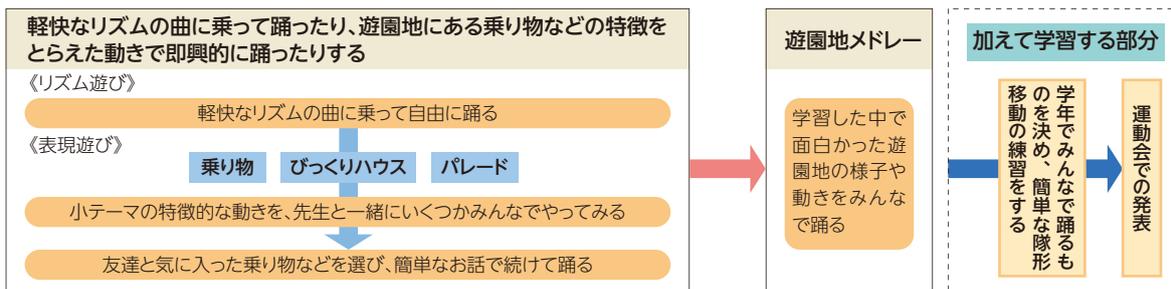
※学習指導要領の内容から

- ・ 3～6年生「ワープリレー」「サークルリレー」（単元：かけっこ・リレー（短距離走・リレー））
- ・ 4年生「チームで協力！小型ハードル走」→レースごとに、自チーム走者のために小型ハードルの間隔を調整しながら行うかけっこ→リレーも可（単元：小型ハードル走）
- ・ 5年生「ソーラン節」、6年生「マイム・マイム」（単元：フォークダンス ※基本的な踊り方）
- ※その他、練習の時間が少なくて済むもの、縦割りや保護者・地域の方と一緒に取り組めるもの
- ・ 大玉転がし、球入れ、綱引き、デカパンリレー、ボール運びリレー
- ・ 飴食い競走、パン食い競走、借り物（人）競走
- ・ ドッジボール、長なわ8の字跳び・集団跳び
- ・ 得意技発表（一輪車・竹馬、短なわ跳び、跳び箱、走り高跳び、マット運動（支持技）、チームリズムダンス等）

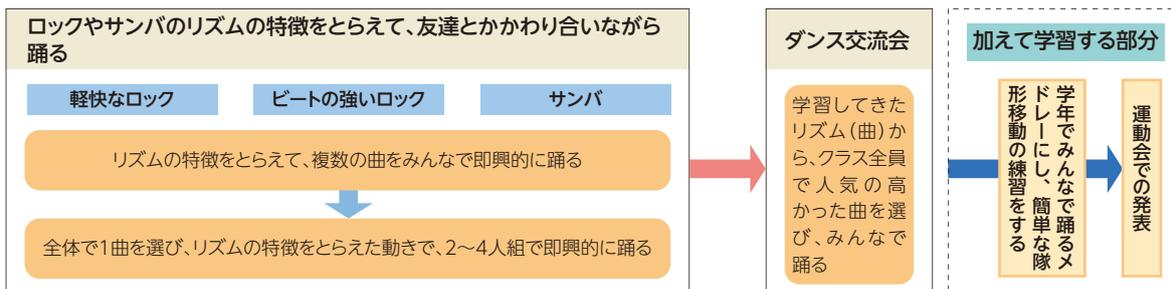
- ・ 運動会予行は設定しないが、高学年の子どもと係担当者との打合せ会は2回設定する。
⇒用具配置図は種目の要領も記入し、全ての係の子どもと職員に配布する。
⇒係の仕事の要領や種目ごとの係分担等について、各係担当は子どもが見て動くことができるように資料を準備し、当日も指示を行う。また、PTAからも係に入っていたかく。
⇒各種目における入退場門での集合の仕方（整列順）等は子どもの氏名を入れて図示し、招集係担当に渡すとともに、各学年の子どもにも印刷して持たせておく。また、拡大してダンボール等に張り、応援席のテントにプログラムと併せて掲示する。 など

※ 表現系の指導内容から運動会での発表に関連させる単元計画例

低学年：表現リズム遊び



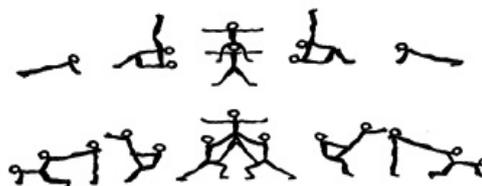
中学年：リズムダンス



コラム

組体操 ～運動会の定番ですが…～

右図は組体操の技の図としてよく目にするものです。これは、「昭和26年中学校・高等学校学習指導要領保健体育科体育編（試案）巧技（現器械運動）組立型」の指導内容として示されたものです。この後の改訂からは指導内容として示されていません。



これまで、学習指導要領は、時代に応じて子どもに指導すべき内容を示すとともに、子どもの実態や実施上の課題に対応するために10年に1回のサイクルで改訂がなされ、現行の学習指導要領までつながってきています。小学校高学年においては、「徒手体操→体操→体づくり運動」と運動領域名とともに、その指導内容も「柔らかさ」「巧みな動き」「力強い動き」「運動を持続する能力」の4つの力を楽しく活動することを通して体力を高めることへと変わってきています。

運動会で組体操を設定し、その練習を体育授業に替えることは、学習指導要領に示されていない内容を取扱うことになり、体づくり運動として実施した場合は、当該学年の体づくり運動の指導内容が未履修となってしまうことから、種目設定時は十分な検討と計画が必要となります。

- 次のような工夫例も保護者の期待に応え、スムーズな運営につながります。
 - ・トラック周辺（可能であればゴール付近）に、交代制の保護者カメラ席の設定をする。
⇒子どもの応援席でカメラ撮影する保護者が少なくなった。（大人がマナーを守るお手本）
 - ・発達の段階を考慮し、学習指導要領を基に走競技の距離を決定する。
 - ・低学年の直線コース以外は、セパレートコースとせずオープンコースで実施。
⇒会場設営の際の準備時間の短縮につながった。
 - ・運動会参観を楽しみにしている保護者や地域の方の期待に応えるとともに、主役である子どもたちに十分に活動する機会を設けるために、安易に種目数を減らすのではなく、縦割り種目や親子競技を設定した。

■ 全市町的な小学校体育大会の練習計画立案について (巻末資料 P57～P58参照)

- 大会の趣旨やねらいは、実施する各市町の取組で違いますが、小学校の大会であるということを踏まえ、その発達の段階を考慮し、競技力向上や勝利至上主義の考え方とは違うことを職員間で共通理解を図っておくことが大切です。大会参加は、全ての子どもが対象です。多くはそのことを考慮し、大会の種目が設定されていると考えられます。大会の趣旨をしっかりと踏まえ、職員に練習計画を提案するとともに、子どもや保護者へも説明をすることが大切です。

【A市小学校体育大会の例】

- ① 小学校6年生の児童が一堂に会し、競技や応援を通して、運動に親しむとともに体力の向上を目指す。
- ② 進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たし、併せて友好親善の情を深める。
- ③ 良き社会人としての資質を養うとともに、本市小学校体育の振興を図り、生涯スポーツの基礎を培う。

- 計画を立てる際は、まず「練習と大会を通して自校の子どもをどのように育てたいのか」ということを、特別活動のねらいを踏まえて担当者が明確に示すことが大切です。そのことを出発点として、出場種目の決定や大会へ向けたチーム編成、継続的な練習方法、当日の応援等の指導計画を立てます。
- 「練習と大会を通して大会に出場する子どもたちを育てる」ということから、指導に当たっては、該当学年にのみ任せのではなく、全職員で無理なく指導に当たる計画が重要です。また、大会後に「練習をしなかったから、負けた」という思いを子どもに持たせることがないように、各種の会議等の設定を調整したり複数の教員で各種目の指導を受持ち交代で指導に当たったりするなど、十分な練習の機会を設ける工夫が必要です。
- 運動会と同様に、大会の練習を体育の学習に替えることなく、放課後等を活用することが基本です。
- 多くの先生が指導に関わっていることや、他の学年が休み時間の運動場や体育館使用の割当てを譲るなどして協力していること等について機会を設けて触れ、道徳との関連を図りながら大会に出場する子どもの感謝の気持ちや愛校心を高めたり、大会出場選手を励ます会などを通じて他の学年の道徳的な心情や態度も高めたりすることにつなげていくことも考慮します。

■ マラソン大会実施計画立案について (巻末資料 P59～P61参照)

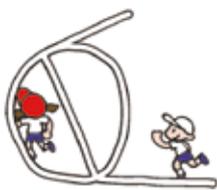
- 季節に応じて、朝から練習時間を設けたり体育の学習との関連を図ったりして、マラソン大会等を設定する場合、子どもの実態等を考慮した大会方法を工夫することで、子どもの取組への意欲を高めることにつながります。

【大会方法の工夫例】

- ・ 時間走：全員が同じ時間で、どれだけ長く走ることができるか競争する。
⇒ 周回の数や距離を明確にするために、コーンやお手玉、距離を表示したペットボトルなどを準備。
- ・ 距離走：全員が同じ距離を走り、その記録と順位を競う。
⇒ 最終週は内側を走るように設定すると、着順がわかりやすい。順位だけでなく、各自で目標記録を設定してその達成をめざすようにしたり、練習前の記録からの伸びを賞賛したりすることで、全ての子どもの意欲を高めることにつながる。
⇒ 距離を設定する際は、中学校における新体力テストの持久走の測定距離が男子1.5km、女子1.0kmであることを考慮して6年生の距離を設定し、他の学年の距離を検討する。

【大会へ向けて子どもの意欲を高める工夫例】

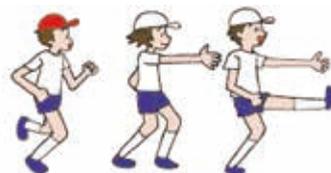
- ・ 体育委員会等がポスターや校内放送で呼びかける。
 - ・ 子どもが進んで練習に取り組むように、がんばりカード等を作り配布する。
 - ・ 歴代の各学年の記録等を掲示する。
- 大会設定の時期は、インフルエンザ等の流行も考慮して検討します。
- 体育の学習との関連を図ることは重要です。体育の学習が大会のための練習とならないように、学習指導要領に示された指導内容に沿って学習を展開します。
- ※ 学習指導要領及び同解説から
- 低学年：「無理のない速さでのかけ足を2～3分程度続けること」
中学年：「無理のない速さでのかけ足を3～4分程度続けること」
高学年：「無理のない速さで5～6分程度の持久走をすること」
- 体育の学習では、固定施設を横切ったり縫うようにしたりするコースを設定したり、音楽に合わせてグループで先頭を交代しながら走ったりするなど、その走り方やコースの工夫をして楽しく活動できるようにします。



いろいろなコースを



リズムに合わせてウォーキング



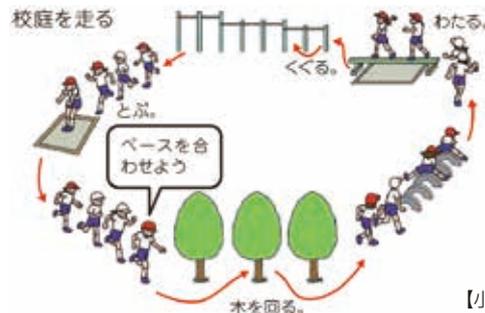
いろいろな動作をつけて



リーダーのまねをして走る



列をくずさずに



【小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブックより】

■ 遠足実施計画立案について

- 子どもが楽しみにしている学校行事の一つです。安全に楽しく過ごすことができるように、しっかりとした準備と約束事等の共通理解を図っておきます。

【留意事項例】

- ・ いくら慣れている場所であっても、子どもの目線で下見を行うことが大切です。それを基に、遊び、場所の約束、整列の仕方、歩き方、道路横断時の教員の動き、笛の合図などを提案します。
 - ・ 担任が現地での遊び方について、配慮すべきことは当然ですが、食べ物のやり取りや昆虫や植物等によるアレルギー反応にも気を配ることも大切です。
- 遠足のねらいと学年の発達の段階に応じて鍛錬遠足の要素を加味して目的地を設定したり、他の学習との関連を図った体験的な学習としての設定も考えられます。(理科や総合的な学習の時間との関連)
- 目的地において、縦割りでの遊びや学級対抗でのゲームを工夫すると、雰囲気盛り上がりやすさが高まったりし、特別活動のねらいに沿った体育的行事へつながります。
- 帰校したら、大きなけが等がなかったか担任や養護教諭に確認します。
- 遠足の実施は天候に左右されるため、延期日の設定や延期の場合の保護者への連絡方法、給食の対応等、各担当者で打合せをしっかりと行い、提案します。

9

児童会活動等との関連を図る

■ 委員会活動による体力向上へ向けた取組 (巻末資料 P62参照)

- 特別活動のねらいを確認し、体育倉庫の掃除など当番活動だけではなく、子どもの体力向上に関わる活動についても計画・実施、評価を行います。

【体育委員会の活動例】

- ・体力向上を意図した自主的な遊びや大会の企画と運営。
- ・マラソンカード、なわ跳び進級表、竹馬進級表等の作成・配布と確認。(スタンプ押しやシール貼り、お昼の放送を使った表彰や賞状渡し等)
- ・大会のルールは、画一的なものでなく、異学年でも競えるような仕組みを工夫します。
例：PK大会→キーパーの人数と蹴る場所の距離を学年によって変える
長なわ大会→高学年：1分30秒、中学年：2分、低学年：3分 など
- 体育委員会が中心となって、体力向上を意図した遊びの紹介を行います。紹介だけでなく、長崎県から各学校に配布されている「遊びの事例集：元気アップチャレンジカード」などを、見やすいところに掲示したり、印刷したりして簡単に取り組めるようにするのも効果的です。
- 集会等で、遊びのルールやボールの片付け方などを確認し、代表委員会への体育委員会からの提案とするのも一つの方法です。

■ 運動や遊びの約束の提案 (巻末資料 P63～P64参照)

- 子どもたちが、楽しく、安全に遊ぶことができるように、安全面に配慮した約束事（遊んで良い場所や使って良い用具等）の提示が必要です。学校によって遊びの決まりの分担が生活指導主任である場合は、生活指導主任と打合せを行い、職員間で共通理解を図る必要があります。
- 子どもが体育で学習したことを休み時間や放課後にも取り組むようになる仕掛けは大切です。「体育倉庫の道具を全て使ってはいけない」など、何でも禁止するのではなく、子どもに用具の使い方や片付け方をしっかり指導して、可能であるものは開放することも一つの方法です。問題があれば、特別活動主任と連携して代表委員会や学級活動の議題にして全校的によりよい行動を促すことを通じ、子どもが集団生活におけるルールやマナーを学ぶことにもつながります。
- 体育の学習では、準備や後片付けも指導内容として示されています。体育の学習と生活を関連させ、休み時間に用具を使用した後も友達と協力しながら進んできちんと片付けができるように、遊具、器械・器具、用具の正しい使い方や片付け方を提示しておくことが必要です。
- 各学級に体育備品等（ボール・長縄・ストップウォッチなど）を配当している場合は、数や片付け、破損の確認を定期的に行います。
- マットや跳び箱などの運び方など、安全・破損を防ぐための学年に応じた方法や子どもだけで扱ってはいけないもの等について提案し、学習指導要領に示された態度の内容がしっかりと身に付くようにします。

10 その他

■ 異動時等の分掌業務の引継ぎについて (巻末資料 P65 ~ P68参照)

- 業務の内容やスケジュールとともに、課題も伝え、その解決のために考えられる方法や工夫も引継ぎます。できるだけ書面で渡すようにします。
- 業務の内容は、過去の文書からわかるようにし、電子データは行事や業務ごとにフォルダを分けたり、ファイル名の最初に日付 (0408←4月8日) を入れるなどして、時系列で整理できるような工夫が有効です。
- 前年度の計画案の最後に、反省を記入したり、引継ぎ事項項目を例示しておき、次年度へ向けてしっかりと確認できるようにしておきます。
- 子どもの体力の状況や体育授業への意識など、体力・運動能力調査や全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果についても確実に伝えます。
- プールの機械操作については、各校で大きな違いがあるので、詳しい引継ぎが必要です。(排水・給水バルブの場所、バルブを回す棒の保管場所)